

2月号
2015

わかばたよい

若葉幼稚園保護者会
若葉町 24-35
0235-22-2237
<http://wakaba-youchien.jp/>

『自分で考え 自分で決める』

「幼児生活団」という幼児施設があります。四歳から六歳までの幼児が週一回通つてくるところで、自由学園の創始者、羽仁もとこさんが開かれたものです。この生活団のユニクさは学生時代から白井常先生によく伺つていたのですが、直に自分の目で確かめたことはありませんでした。

一一〇一四年四月から毎日新聞日曜版でいしいしんじという人が、自分も通つていた生活団に三歳のお子さんをお入れになつて、その坊やのそこで出来事や成長を折々に書いておられ、日曜ごとにこの欄を読むのが楽しみな私です。

現在四八歳のいしいしんじさんが先日、その生活団の保護者に『子どもと育つ』というテーマで講演されたと八日(日)の紙面にありました。「僕は自分がせいかつだんに通つていた『いしいしんじ』にどれだけ支えられているかということを話しました。」と。そして「自分で考え彩る生活とは、こりかたまつた退屈なものにはならない。そのことを四歳、五歳、六歳と僕たちは学んだ。生活は絵だと。合奏だと。物語であると。」「この種を生活団で埋め込まれた」のだと。

これを読みながら「あつこれは私たちが子どもたちに願っていることと同じだ」と思いました。全て大人の御膳立てしたことと言われるがままにこなしていく日々の積み重ねではなく、自分たちのやりたいことが実現できる環境がそこにはいつも用意されているという大人たちの配慮の中で過ごすことのできる子どもたちは幸せです。絵を描くことも、楽器を奏でることも、材料はそこに置かれているが、手をのばしていくのはその人の選択にまかされている。そしてそこには楽しそうに描いている、きれいに演奏している先生や友人がいる。そんなステキなモデルがあることも大切です。

若葉の子どもたちも「こんな風に大きくなつて欲しい。そして『あの若葉時代の僕や私に今が支えられているのだ』と思つてもらえるようであれば、こんなにうれしいことはありません。そして、このうれしさこそが私たち大人(保育者)をより大きく育ってくれることになるのだと思わされました。

園長 田口 美穂



ママのひとりごと

「今日もスキーいこ」最近毎週次女から言われる言葉だ。最近までは「昨日は幼稚園でたくさん遊んで疲れているからスキーは行かない」とか何かと理由をつけてはスキーを始めることを頑なに拒んでいた次女。家でスキーをはかせてみたら、「スキー場に行ってみてもいい。」となった。初めてのスキー場ではほめておだてて持ち上げて…ありったけの言葉で気分よく滑る練習をさせた。すると、スキー場2回目にして、もうすっかり滑ってこられるようになった。それからは雪が降ろうが、雨が降ろうが、暴風だろうが「行く」という。嬉しい誤算だ。今は滑るのがただ楽しいようだ。ちょっと急斜面で私が躊躇していてもお構いなしに脇を通りぬけてどんどん先を滑ってしまう。今シーズンであるあなたの背中を見ながら滑れるとは思わなかつたよ。強制ではなくほんのちょっとのきっかけやほめる言葉が子供を大きく変えることができるものなんだなあとつくづく感じる今日この頃だ。

(N. T)

満2、3歳児の入園 ご相談ください

3月のオープンキンダー
(園の見学、体験)は
4、11日(水)です

見学のほか、ご相談も
お気軽にご連絡ください